

ALS の活用について (2)

廣田知子*1・當間亜紀子*2・池田佳奈子*1・桑名杏奈*1・浅本紀子*3

Email: hirota.noriko@ocha.ac.jp

- *1: お茶の水女子大学 情報基盤センター
 *2: お茶の水女子大学 理学部
 *3: お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系

◎Key Words アクティブ・ラーニング, 学修支援

1. はじめに

お茶の水女子大学では「主体的に実践・行動する経験を生み出すための環境整備」を目的として、2014年度にアクティブ・ラーニングスタジオ(Active Learning Studio, 以下 ALS と呼ぶ)を構築した。本格運用が開始された2015年度から2016年度前半にかけて徐々に整備された運用体制¹⁾のおかげで利用者は増え、2016年度後半から2017年度現在にかけて大幅な増加はなかったものの安定した利用数を得ている。本発表では、2016年度後半から2017年度前半におけるALS利用例のひとつとして、情報基盤センター「パソコン相談担当」における利用(講習会の開催)を紹介する。尚、パソコン相談担当は2015年度からALSを利用しており、今回で3年目となる。2016年度までと比べて利用を変更した点についても言及する。

2. ALS 活用例(ノートパソコンを持ち込んだ講習等)

2.1 講習内容とALSエリアの利用

情報基盤センター「パソコン相談担当」は例年通り2017年度においても4月上旬から5月中旬にかけて、新入生を対象とした講習会を開催した。その内容を表1に示す。(表の(B)は講習ではないが、説明の便宜上、表に入れている。)

表1 「パソコン相談担当」の講習内容

項番	内容
(A)	セキュリティの基礎知識を学ぶ講習会
(B)	(C)と(D)のサービス受講者の予約受付
(C)	学生の私物パソコンへのセキュリティソフトのインストール支援
(D)	ノートパソコン貸出プログラム

ALSはスペースが「セミナー室」「コモンズ」「ベンチエリア」の3つのエリアに分けられている²⁾。各講習に利用したスペースを図1に示す。昼休みには(A)が行われ、(A)終了後、受講者のうち(C)と(D)のサービス受講希望者のみ「コモンズ」に移動してもらい、そこで予約受付が行われた。また夕方においては(C)と(D)が同時開催された。(C)は「セミナー室」で行われた。(D)

は当初、昨年度同様に「ベンチエリア」で行われていたが、ベンチのスペースと配置上、受講者がノートパソコンを操作している際にパソコン画面がスタッフの死角となり確認がし辛い・多人数を相手に出来ないという問題があったため、期間の後半では「ベンチエリア」の代わりに「コモンズ」が利用されることもあった。その際は1コマの受講者を最大10人(「ベンチエリア」利用時は半分の5人)とし、「コモンズ」に予め用意されている可動式の大型テーブルを使ってプログラムが行われた。学生の作業状態をスタッフが確認しやすく、「ベンチエリア」と比べて1コマあたりの受講者の定員を倍に増やすことが出来た。

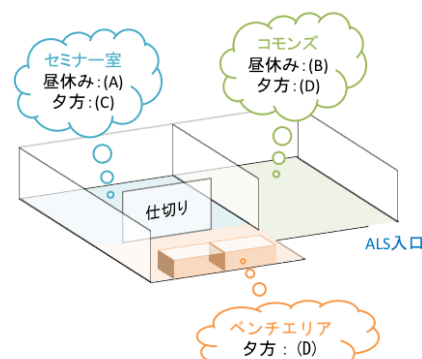


図1 講習会におけるALS利用図

(C)と(D)が同時開催であった理由は、授業により学生が受講できる時間帯が限られていること、他の団体との兼ね合いもあり、長時間ALSを使用することは難しかったことが挙げられる。しかし同時開催であっても、間取りによって各エリアが区切られているため、受講者は他のエリアに気が散ることなく内容に集中出来、またスタッフにとっては、同じ部屋内であるため各エリアの状況確認が容易く、少ないスタッフ数であっても連携をとってスムーズに講習を進行させることが出来た。そしてALSの広さも講習の規模と合致しており、広すぎず狭すぎず、スタッフと受講者の距離感も近く、受講者からの質問に素早く対応することが出来た。また、パソコン相談担当の部屋はALSの隣室(「コモンズ」の壁隣)であり、廊下を経由せず壁に設置されたドアからの行き来が可能となっている。よって楽に荷物を移動させることが出来たことも利点であった。

2.2 利用したALSの備品・機器

講習会で使われた ALS の備品や機器について説明する。(A)と(C)では移動可能な机と椅子及びスライド投影のためにプロジェクタが使用された。机と椅子が移動可能なおかげで、(A)にて想定以上の人数が来室した際にも柔軟に対応することが出来た。図2は、セミナー室でプロジェクタを利用している(C)の様子である。



図2 「セミナー室」にて、電子白板に投影したスライドを使いスタッフが説明を行なっている(C)の様子

また、(C)では受講者がノートパソコンを持ち込みインターネットに接続して作業してもらう必要があったために無線LANが、そしてノートパソコンの充電のために電源コンセントが利用された。(C)は完全予約制(B)で予約をした者のみであったが、インストール作業に時間がかかり次の時間にまで作業がずれこむ学生がしばしば見られた。次の時間を予約している学生が来た際には机付き椅子を「セミナー室」の空きスペースまで移動させ、そこに座って待ってもらい、時間がきたらその椅子に着席したまま作業を進めてもらうことが出来た。その様子を図3に載せる。



図3 「セミナー室」にて、学生が私物パソコンを使い各自で作業を行なっている様子

(D)で使われた ALS の備品については、先述の通り、「ベンチエリア」を使用した時には備え付けのベンチとテーブルを、「コモンズ」の時には可動式の大型丸テーブル(3台)と可動式椅子を使用した。いずれのエリアにおいても使用したテーブルは広く、貸し出す添付品(ACアダプタ、説明書、本体を収納するケース等)を扱う際に作業しやすく便利であった。ベンチの場合はスタッフが受講者の作業状況を確認し辛かったが、「コモンズ」で使用したテーブルの場合はそのようなこともなく、テーブルを見回りながら各受講者の状況を把握することが出来た。図4は「ベンチエリア」を利用した際の(D)の様子である。



図4 「ベンチエリア」にてノートパソコンの貸出を行なっている様子

2.3 利用を終えて

今回3年目の利用ということもあり、パソコン相談担当のスタッフも ALS 設備や機器の利用に慣れ、戸惑うことなく講習を進行させることが出来た。また今回は途中から(D)の利用スペースを「ベンチエリア」から「コモンズ」に変更したことにより、ALSをより有効的に活用することが出来た。今回までの経験を生かし、次回の2018年度はさらに効率よくALSを活用していきたい。

3. おわりに

サポート・管理体制が整ったおかげで、2016年度後半から2017年5月現在まで、ユーザは概ねトラブルなくALSを利用することが出来ている。本発表で紹介したパソコン相談担当の利用のみならず、ALSを毎年同じ授業やイベントで利用する固定ユーザは多く、授業期間中は常に一定の利用数が維持されている状況である。しかし2016年度後半からの新規ユーザは少なく、固定ユーザばかりが利用している印象も否めない。その理由として考えられるのは、未だ周知活動が不十分であること、数ヶ月単位での長期利用等によって予約が埋まり他の希望者が利用出来ない状況が発生している等が考えられる。利用者の中には「保険」として余分な予約確保を行い実際には利用しない日があったり、ALSの一部のエリアしか使用しないにも関わらず全エリアを予約する、といった利用者も散見される。また、ALSが使用されるのは主に授業や職員主催の講習会等においてであり、学生主体の団体(サークルや学生だけのゼミ等)による利用は極めて少ない。学生からの話を聞き限り需要がないとは考えにくく、元々ALS構築には学生による主体的な実践・行動の場として利用してほしいという願いも込められていたことを考えれば、改善すべき点である。より多くの様々な団体にトラブルなくALSを活用してもらうためにはどうすれば良いか、今後模索していく必要がある。

参考文献

- (1) 廣田知子, 當間亜紀子, 桑名杏奈, 笹倉理子, 浅本紀子: “ALSの活用について(1)”, 2016 PC Conference 報告集, pp.59-62 (2016).
- (2) 桑名杏奈, 廣田知子, 池田佳奈子: “お茶大アクティブ・ラーニングスタジオについて”, 2015 PC Conference 報告集, pp.31-32 (2015).